

えひめなかくて 愛媛中生の特性と栽培

温州ミカンは極早生から高糖系晩生まで多彩な品種系統が栽培されているが、全国の生産状況のなかで愛媛産地としては、12月出荷を中心とする中生温州を基幹的な主力品種にすえていく必要がある。

果樹試験場が育成した中生温州「愛媛中生」は、県内数か所で試作調査したところによると、日照や土壤の排水性などの条件が良いと

表1 品種特性

| | |
|---------|--|
| 樹勢および樹姿 | 樹勢は南柑20号よりやや強く、幼木期の成育は良好である。勢いの良い発育枝にはトゲを生じることがある。 樹勢は開帳性があるが、幼木期には強い枝が発生し、やや立ち気味になる。 |
| 結実性 | 豊産性で、隔年結果性は南柑20号程度である。 |
| 着色期 | 南柑20号より1週間程度早く、10月上旬に着色が始まり、11月上旬に完全着色となる。着色むらが少なく、果こう部の緑色の抜けが良い。 |
| 果実の形質 | 果面が滑らかで、果皮は薄く、果肉歩合が高い。 大きさ、果形は南柑20号とほぼ同じであるが、浮き皮は少ない。 |
| 果実の品質 | 糖度は12度前後であり、酸の減少はやや早い。 じょうのう膜が柔らかく食味は良好である。 |
| 熟期 | 11月中旬頃 |

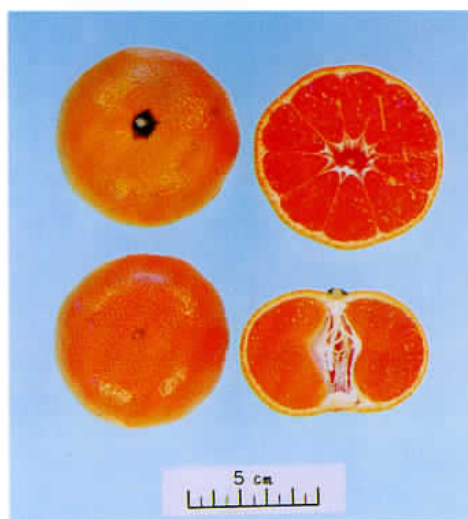
ころであれば、結実が良好で果実品質が優れている。

愛媛中生の植栽にあたっては、この品種特性を十分に生かすため、日当たりの良い南面傾斜地で、有効土層がやや浅く、排水の良好な園地を選ぶことが肝要である。

樹勢がやや強く、ことに土層が深く、土壤水分の多い園地では、幼若齢期に栄養生長が盛んになって結実がみだれ、品質の良いものができない。

苗木定植後または高接ぎ後、1～2年の間は着果しても早めに全摘果し、7月に軽く切り返して夏枝の発生を促し、樹冠の拡大をはかる。本格的にならず時は夏枝を母枝にして一斉に着果させるのがよい。

(育種班：主任研究員 喜多 景治)



愛媛中生の果実

表2 愛媛中生と南柑20号の品質

| 品種名 | 1果重 (g) | 果形指数 | 果肉歩合 (%) | 可溶性固形物 (g/100ml) | クエン酸 (g/100ml) | 甘味比 | 分析調査 |
|-------|---------|------|----------|------------------|----------------|------|----------|
| 愛媛中生 | 163.3 | 147 | 69.6 | 12.78 | 0.93 | 13.7 | H3.11.20 |
| 南柑20号 | 151.6 | 141 | 67.1 | 11.46 | 1.09 | 10.5 | |
| 愛媛中生 | 111.4 | 137 | 71.6 | 12.58 | 1.15 | 10.9 | H4.11.11 |
| 南柑20号 | 106.7 | 135 | 74.4 | 11.40 | 1.24 | 9.2 | |